

住民がしつらえる「場」に関する研究 -千里文化センター「コラボひろば」を事例として-

正会員 ○永川 裕樹 1* 正会員 鈴木 毅 1*

正会員 松原 茂 3*** 正会員 木多 道宏 4****

コミュニティ施設 まちづくり

住民活動

1. 研究の背景・目的

近年、住民が集まれる場所の不足という状況の下、コミュニティカフェのような住民がボランティアで運営を行う施設が増えてきている。さらにそういった場所では、様々な活動が行われることによって、1つの場所でいくつもの「場」が展開されるようになってきている。千里ニュータウン（以下、千里 NT）の「コラボひろば」もそういった施設の 1 つである。ここではコミュニティカフェであるコラボカフェ横に多目的スペースが併設されており、これらを一体として利用することが出来る。また千里近辺のみでなく、幅広い地域のボランティア、NPO 経験者が集まる事で様々な「場」が展開されている。

そこで、本研究では、「コラボひろば」を運営者側から調査することで、千里 NT において現在住民にどのような場が必要とされてきているのかを明らかにすることを目的とする。

2. 調査対象地

本研究では、千里 NT 中欧地区に 2008 年に開館した千里文化センター「コラボ」（以下コラボ）のメインエントランス脇に設けられている「コラボひろば」を対象とした。「コラボひろば」は、コラボの建て替え計画への住民の積極的な参加により設けられることとなり、2010 年 4 月 6 日にオープンした。現在は豊中市に寄る資金援助の下、住民主体で運営しており、ボランティアに対してコラボカフェのみで使える地域通貨である「コラボ通過」が支給されている。

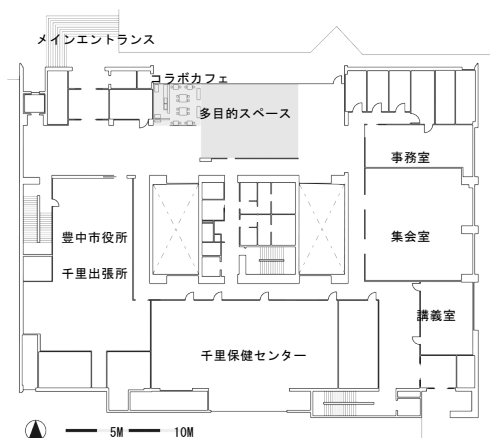


図 1. 千里文化センター2階平面図

3. 調査方法

コラボひろばで活動している住民がどのような経緯で活動を始め、どのような場所を必要としているのかを明らかにするため、2012 年 6 月～11 月の間、主となって活動している住民 9 名へのインタビューを行った。また、2012 年 11 月 15 日～12 月 7 日の間、その他ボランティアの方々にもコラボひろばでの活動に関するアンケートを実施し、50 名中 22 名分の有効回答を得た。同時に不足情報を補うため、現地での聞き込み調査も同時に行った。それぞれの質問項目をまとめたものを表 1 に示す。

- | |
|--|
| ① 代表者 9 名へのインタビュー (40 代女性 3 名, 60 代男性 6 名) |
| ・ 住民活動を始めた経緯 |
| ・ 現在コラボひろばにおいて担当している活動の概要・経緯 |
| ・ 今後の方針 |
| ② ボランティアの方々へのアンケート、聞き込み調査 |
| ・ 年齢・活動・住まい ・ 活動内容・活動頻度 |
| ・ 活動を始めたきっかけ・理由 ・ 活動を通して感じたこと |

表 1. インタビュー、アンケート内容

4. 住民ボランティアの内訳

アンケートより、回答の得られた 22 名中 4 名が豊中市外から訪れていると答えた。また聞き込み調査において大阪市内からボランティアへ訪れているという意見もうかがう事が出来、千里に限らず、幅広い地域の住民の活動拠点となっていることが分かった。

また、年齢について見てみると、大きく 30~40 代と 60~70 代の 2 つの世代に分けられる。そのため、様々な価値観を持つ人達と一緒に活動する様な場所となっている。

5. 住民発意による「場」(図 2)

コラボひろばで行われている活動は、全て 1 人、もしくは数名の住民による発意を契機として行われている。発意のきっかけは、住民同士の会話、その他の活動を通して感じたことなど様々である。また、豊中市がそれらの発意についてほとんど意見する事なく、あくまでサポートする立場として関わっているために、コラボひろばでは、公共施設内であるにもかかわらず住民が発意した内容がそのまま実現する形がとられている。つまり、発意そのものは後述する様な単純な内容でありながら必要に迫られたものであり、それらを具体化するプロセスにおいて秀でたコミュニティが形成されていると言える。

また様々な背景を持つ人それぞれが提案した「場」が

同じ場所で展開されることで、コラボひろばは様々な人に対応した柔軟な場所となっている。

そのため、活動内容も年々増えてきており、多様化している。今後も様々な背景を持った意欲的なボランティアの増加に伴って増えていくことが期待される。

活動タイトル	開始時期	開始のきっかけ・理由	活動内容	活動時間	利用者
コラボ大蔵校	2010年4月	公民館で定期的に行われていた公演の減少	ボランティアで講師を募り、講演を行ってもらう	毎月第2土曜日 14:00～16:15	50人程度
多文化カフェ	2010年4月	以前までの他の場所で行っていた国際活動の延長	外国の方を講師に招いて現地の生活や文化を聞く	毎月第3火曜日 10:00～12:00	10名程度
絵本カフェ	2010年4月	身近な場所にも絵本カフェが欲しい	実行委員や図書館の司書がテーマに沿った読み聞かせを行う	毎月第1金曜日 10:00～12:00	10名程度
ラウンドテーブル	2010年5月	千里全体での集まりが無い	地域で行っている活動事例等を披露しあう	隔月第4土曜日 14:00～16:00	15名程度
まちあるき	2011年3月	道を尋ねてくる人の出現	千里の街を様々な説明を受けながら歩いてまちの魅力を再発見してもらう	不定期	15名程度
ボランティア応援コーナー	2011年4月	今までの活動で得た情報やつながりを伝えたい	何か始めたい人が何から手をつけたらいいかわからない人への情報提供	毎月第2・第4火曜日 14:00～16:00	2～3名程度
コラボ談話室	2011年4月	住民とまっとうなフランクに話せる場が欲しい	15分間の話題提供の後、その内容について参加者で話し合う	毎月第1土曜日 10:00～12:00	15名程度
転勤族カフェ	2012年4月	新規入居者の集まる場所が無い	転勤族ならではの悩み等自由に話し合う	毎月第3金曜日 10:00～12:00	10名程度

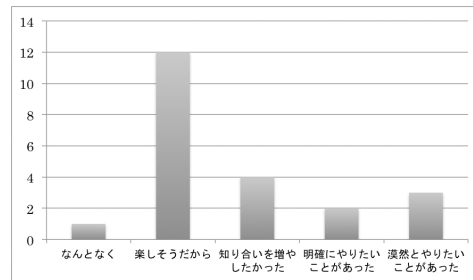
表2. コラボひろばで主に展開されている「場」

6. 特徴的な「場」

コラボひろばで展開されている中で、特徴的な「場」として2つを取り上げる。

転勤族カフェは、千里において転勤族の居場所がないとして、コラボひろばで活動していた新規入居者3名が提案し、2012年4月から開始された。内容は転勤族ならではの悩み、不安等の「相談」、また引っ越しして来たばかりの人には、住民ならではの地域情報の伝達も行っている。この活動が始まってから1年未満であるが、その期間中に多くの住民が、コラボサポーターとなってボランティア活動をしている(図3)。転勤族カフェの代表者の方へのインタビューによると、その内訳のほとんどが30～40代の主婦の方々であることが明らかになった。さらに現地調査の中で、転勤族カフェに訪れた方がコラボひ

ろばで行われている他の活動に参加するなどの行動が見られ、コラボひろばが新規入居者の居場所になりつつあることが推測される。



コラボ談話室は、千里に
いる様々な経験・知識を持った住民の
意見を聞きたいとして2011

年の5月から始まった活動である。参加した市民の方に話題を提供してもらい、その内容について参加者で語り合うことを行っている。この中では、多世代の住民が議論し、お互いの価値観を擦り合わせるといった「対話」が行われている。そこで得た様々な意見は、新たに活動を進めていく上での参考として用いられており、多くの意見が必要とされるまちづくりにおいて、なくてはならない場となっている。

7. まとめ

コラボひろばでは、従来のコミュニティカフェで展開されてきた様な、日常会話である「雑話」に加えて、様々な「相談」事業やコラボ談話室のような「対話」の場が現れてきている。そして、そのような「場」が設けられることで、今までそういった住民活動に関わってこなかった人たちが活動を始めるきっかけとなる場所に、また、活動に意欲的な人が話し合う場所となっている。

また、コラボひろばでは、様々な背景を持った人たちが協力することで、少しずつ周りの人を巻き込みながら様々な「場」が展開されている。そして、活動を行っていく中で現れて来た意見によって、その数も徐々に増えてきている。今後、さらに多くの住民が関わることによって、より多くの様々な住民の生活に即した「場」が展開されていくことに期待する。

【謝辞】調査にご協力いただきました千里文化センター市民実行委員会、コラボサポーター、豊中市職員の皆様に心よりお礼申し上げます。

参考文献

豊田哲平, 「千里再生に置ける計画決定プロセスに関する研究-千里中央地区再整備事業を事例として-」, 日本建築学会近畿支部報告集, 計画系 (46), 129-132, 2006

豊中市千里文化センター市民運営会議検討報告書, 平成20～23年度2009-2012

日本建築学会編, 「まちの居場所 まちの居場所をみつめる/つくる」, 東洋出版, 2010

中島義道, 「＜対話＞のない社会」, PHP新書, 100-136, 1997

平田オリザ, 「対話のレッスン」, 小学館, 150-175, 2001

桜井厚, 小林多寿子「ライフストーリー・インタビュー」, せりか書房, 134-148, 2005

*大阪大学大学院高学研究所地球総合工学専攻 博士前期課程

**大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 准教授・博士 (工学)

***大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 助教・博士 (工学)

****大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授・博士 (工学)

* Dept. of Global Architecture Graduate School of Engineering, Osaka University

** Assoc. Prof., Dept. of Global Architecture, Graduate School of Engineering, Osaka University, Dr. Eng.

*** Assis. Prof., Dept. of Global Architecture, Graduate School of Engineering, Osaka University, Dr. Eng.

**** Prof., Dept. of Global Architecture, Graduate School of Engineering, Osaka University, Dr. Eng.